

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和3年2月12日(2021.2.12)

【公表番号】特表2020-505443(P2020-505443A)

【公表日】令和2年2月20日(2020.2.20)

【年通号数】公開・登録公報2020-007

【出願番号】特願2019-558328(P2019-558328)

【国際特許分類】

C 07 C 229/10	(2006.01)
A 61 K 31/14	(2006.01)
A 61 P 31/10	(2006.01)
A 61 P 31/04	(2006.01)
A 61 P 31/22	(2006.01)
A 61 P 31/20	(2006.01)
C 07 C 227/08	(2006.01)

【F I】

C 07 C 229/10	
A 61 K 31/14	
A 61 P 31/10	
A 61 P 31/04	
A 61 P 31/22	
A 61 P 31/20	
C 07 C 227/08	C S P

【手続補正書】

【提出日】令和2年12月25日(2020.12.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

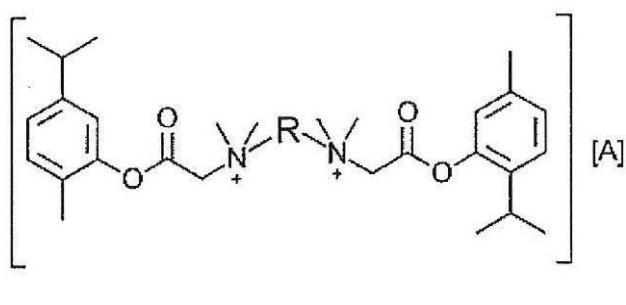
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

次の式を有し：

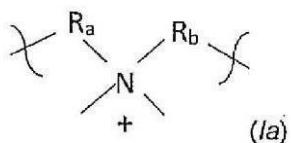
【化1】



式中、Rは8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、およびAは-2の合計電荷を有する一以上のアニオンであり；

またはRは、次の式を有する第四級アミンであり：

【化2】



式中、R_aおよびR_bは各々8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、およびAは-3の合計電荷を有する一以上のアニオンである、化合物。

【請求項2】

Rが、8および16個の間の炭素原子、例えば、10個の炭素原子を有する飽和線状アルカン鎖であるか；R_aおよびR_bが、8および16個の間の炭素原子、例えば、10個の炭素原子を有する飽和線状アルカン鎖である、請求項1に従う化合物。

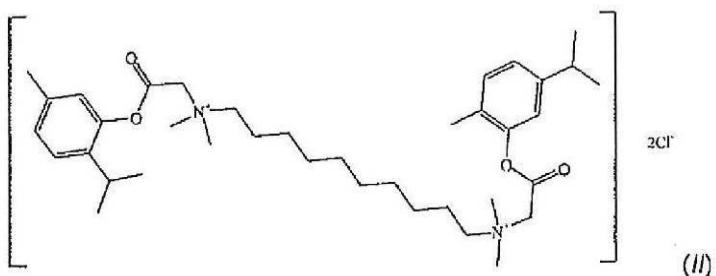
【請求項3】

一以上のアニオンは塩化物アニオンおよび臭化物アニオンから選ばれる、請求項1または2に従う化合物。

【請求項4】

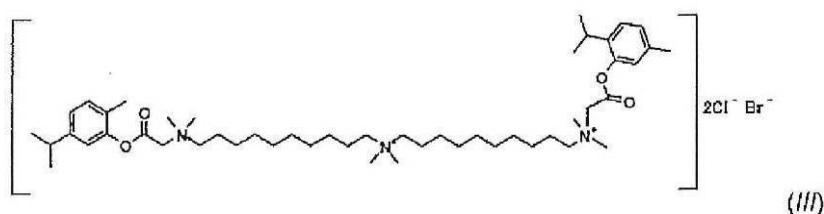
次の式：

【化3】



または

【化4】

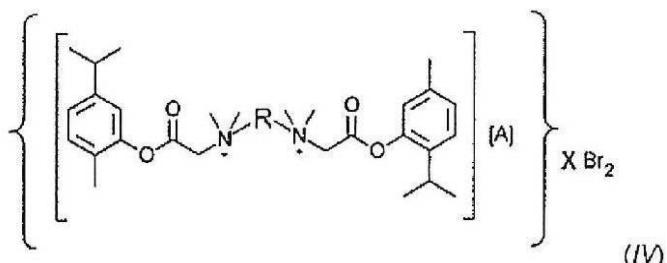


を有する、請求項1、2または3に従う化合物。

【請求項5】

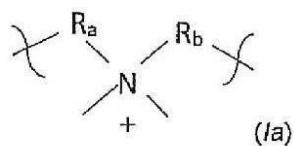
次の式を有し：

【化5】



式中、Rは8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、およびAは-2の合計

電荷を有する一以上のアニオンであり；またはRは次の式を有する第四級アミンであり：
【化6】



式中、R_aおよびR_bは各々8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、およびAは-3の合計電荷を有する一以上のアニオンであり；および式中、Xは2、4、6、8または10である、化合物。

【請求項6】

Rが、8および16個の間の炭素原子、例えば、10個の炭素原子を有する飽和線状アルカン鎖であるか；R_aおよびR_bが、8および16個の間の炭素原子、例えば、10個の炭素原子を有する飽和線状アルカン鎖である、請求項5に従う化合物。

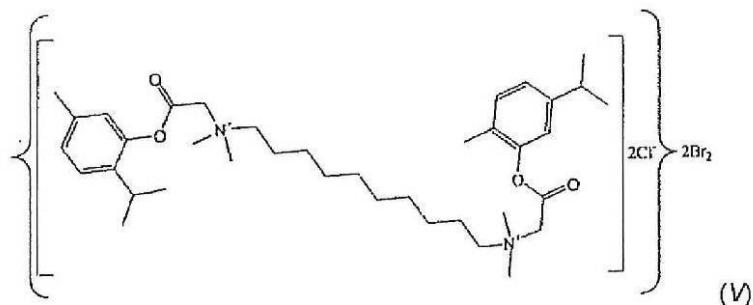
【請求項7】

—以上のアニオンは塩化物アニオンおよび臭化物アニオンから選ばれる、請求項5または6に従う化合物。

【請求項8】

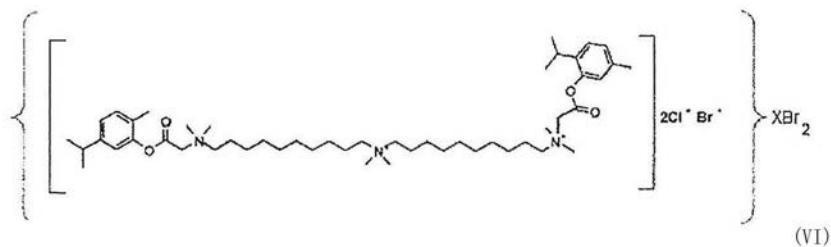
次の式を有し：

【化7】



または

【化8】



式中、Xは4、8または10である、請求項5、6または7に従う化合物。

【請求項9】

請求項1ないし8のいずれか一項の化合物を含む薬剤組成物。

【請求項10】

薬として使用するための、請求項1ないし8のいずれか一項に従う化合物。

【請求項11】

真菌感染および/または細菌感染の処置において使用するための、請求項1ないし8のいずれか一項に従う化合物。

【請求項12】

ヘルペスウイルスおよび/またはヒトパピローマウイルス、例えば、単純ヘルペスウイ

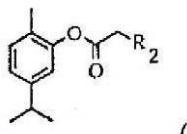
ルスまたはサイトメガロウイルス、例えば、単純ヘルペスウイルス1または単純ヘルペスウイルス2、の処置において使用するための、請求項1ないし8のいずれか一項に従う化合物。

【請求項13】

請求項1ないし4のいずれか一項の化合物を生産するにあたり、以下を含み：

i) カルバクロールを、式：

【化9】

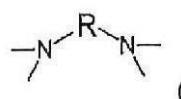


(VII)

を有する化合物を形成するために、 R_2CH_2COCl と反応させることであり、式中、 R_2 はハロゲン、例えば、塩素または臭素であり；

ii) 式

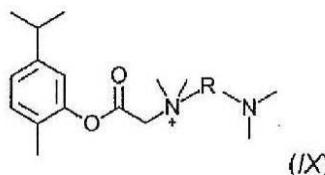
【化10】



(VIII)

を有する化合物を、式

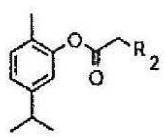
【化11】



(IX)

を有する化合物を形成するために、式

【化12】

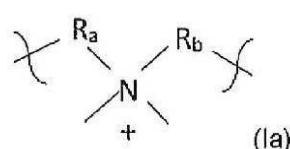


(VII)

を有する化合物と反応させることであり、

式中、Rは8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり；またはRは、次の式を有する四級アミンであり：

【化13】

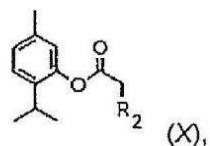


(Ia)

式中、 R_a および R_b は各々8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり；

iii) チモールを、式

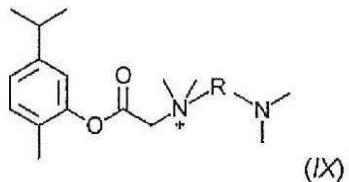
【化14】



を有する化合物を形成するために、 $\text{R}_2\text{CH}_2\text{COCl}$ と反応させることであり、式中、 R_2 はハロゲン、例えば、塩素または臭素であり；

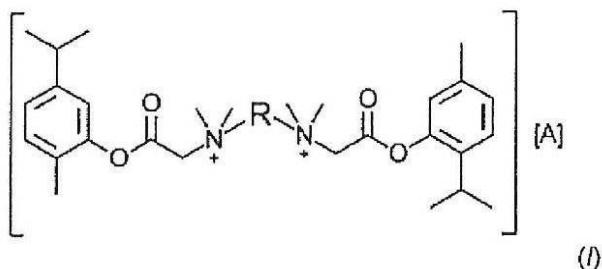
iv) 式

【化15】



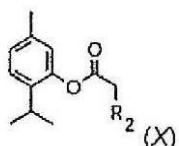
を有する化合物を、式

【化16】



を有する最終生成物を形成するために、式

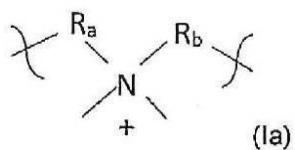
【化17】



を有する化合物と反応させることであり、

式中、 R は8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、および A は-2の合計電荷を有する一以上のアニオンであり；または R は次の式を有する第四級アミンであり：

【化18】



式中、 R_a および R_b は各々8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、および A は-3の合計電荷を有する一以上のアニオンである、プロセス。

【請求項14】

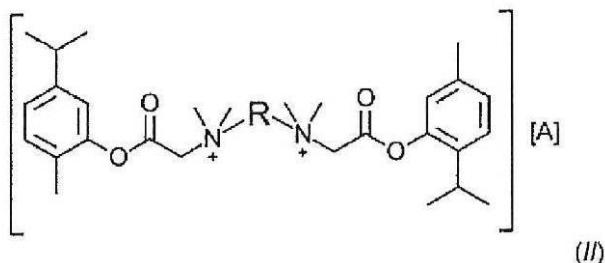
Rが、8および16個の間の炭素原子、例えば、10個の炭素原子を有する飽和線状アルカン

鎖であるか；R_aおよびR_bが、各々8および16個の間の炭素原子、例えば、10個の炭素原子を有する飽和線状アルカン鎖である、請求項1_3に従うプロセス。

【請求項1_5】

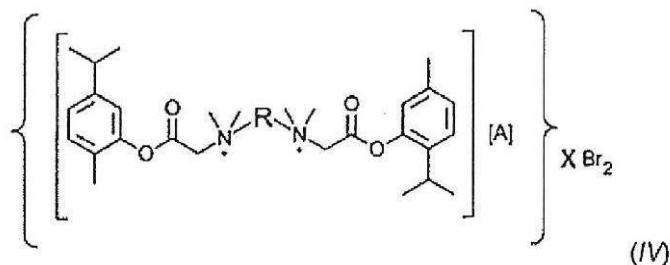
請求項5ないし8のいずれか一項に従う化合物を生産するにあたり、式

【化1_9】



を有する化合物を、式

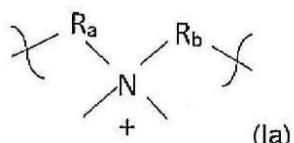
【化2_0】



を有する化合物を形成するために、臭素と反応させることを含み、

式中、Rは8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、およびAは-2の合計電荷を有する一以上のアニオンであり；またはRは次の式を有する第四級アミンであり：

【化2_1】

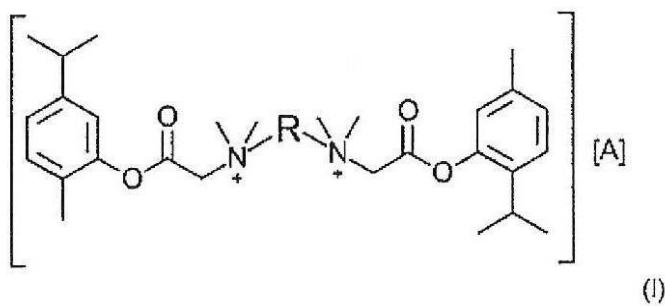


式中、R_aおよびR_bは各々8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、およびAは-3の合計電荷を有する一以上のアニオンであり；および式中、Xは2、4、6、8または10である、プロセス。

【請求項1_6】

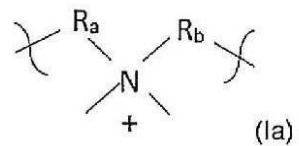
次の式を有する化合物であり：

【化2_2】



式中、Rは8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、およびAは-2の合計電荷を有する一以上のアニオンであり；またはRは次の式を有する第四級アミンであり：

【化 2 3】



式中、R_aおよびR_bは各々8および20個の間の炭素原子を有するアルカン鎖であり、およびAは-3の合計電荷を有する一以上のアニオンであり；およびそこでは化合物は隨意に臭素と錯体を形成する、化合物。